

# 嬉 望

第 10 号

兵庫教育大学 学校経営コース大学院生編集部

## ●兵庫教育大学 教職大学院研究・連携推進センター長インタビュー

安随 幸蔵 センター長のインタビューの2回目です。

### 3 教職大学院と教育委員会及び各学校の連携の今後についてお聞かせください。

教育委員会ともっと連携を密接にして、皆さんにより高度な専門性に裏打ちされた実践力のある先生として育てていただきたい。そのためには、教育委員会や学校現場における今日的な教育課題を踏まえ、アカデミックのみに陥ることなく、真に現場に貢献できる実地研究や共同研究の在り方を、継続して研究していく必要があると思います。このため、教育委員会、学校現場、実習に行く皆さん等々いろいろな方から、いろいろな意見をいただいた上で、より良い連携協力のあり方を構築していきたいと考えています。

### 4 この通信が発行される頃は、私たち学校経営コースの2年次生のインターンシップが始まる頃です。私たちに何かアドバイスをお願いします。

先ほど申し上げたように（9号の記事参照）、インターンシップ先に対する貢献は、インターンシップ計画に入れておられることでは、あらためてお願いいたします。もちろん、皆さんの研究テーマもそれぞれだと思いますが、共通することとして学校経営の視点を持ってインターンシップを行なっていただきたいことです。2ヶ月という短い時間ですが、こんな機会は大学院にいらっしゃる時にしかできないと思います。「なぜ」こうなっているのか、「なぜ」こうしているのか、など「なぜ」を大切にしてください。ぜひ、幅広い力を付けてください。様々なものの判断をするためには、多くのことを知る必要があります。研究も大切ですが、そういったことにも少し力を注いでいただきたいと思います。

### インターンシップ受け入れ先へのメッセージをお願い致します。

将来の県や市町の学校教育の中心になっていく人材ばかりなので、どしどし注文を出して、遠慮なく鍛えていただけたらと思います。

お忙しい中、ありがとうございました。

## ●キャンパス・クリーンデー

兵庫教育大学では、今年度から、毎週水曜日を「キャンパス・クリーンデー」として、学生や院生の自主的なキャンパス内清掃活動を推進しています。そこで学校経営コースでは、寮に居住している院生が音頭を取って、水曜日の早朝クリーン活動を展開しています。

朝6時ごろに集合し、キャンパス内ではなく、1時間程度散歩を兼ねて学外の公道のゴミ拾いを続けています。学校経営コースの1年生と2年生が中心ですが、寮で親しくなった学部生も誘っての活動です。



教職大学院研究・連携推進センターの様子



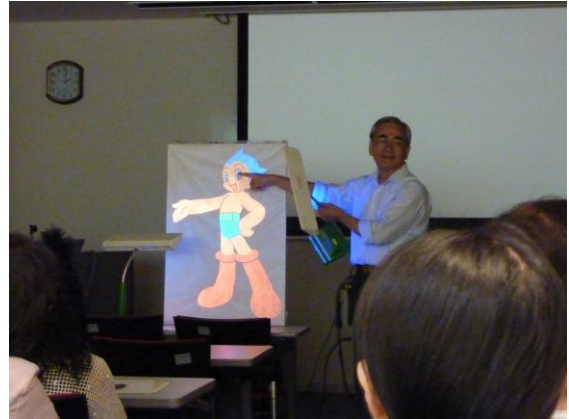
教職大学院研究・連携推進センターの様子

奥に見えるのは、教科書・指導書・学校要覧等です



●西脇市と兵庫教育大学との連携講座に参加してきました。

「嬉望」7号で、お伝えしましたが兵庫教育大学は地域の連携事業をしています。筆者は7月23日(土)加西市の「アステアかさい」にある地域交流センターで行われた本学大学院である本間均教授による「国際理解」の講座に参加してきました。地域の主婦や高校生などが参加されていました。世界や日本の現状、なぜ国際理解が必要か、といった話や国際理解の基本、英語教育、国際交流の実践例、ドナルド・キーンやマイケル・サンデルなどの日本に対する好評価の紹介、本間教授の物理学者・大学研究者・教員としてのミシガン大学やアメリカの国立研究所、ニューヨーク市立大学、ヒューストン大学での経験のお話等々、多岐にわたる内容でした。写真左は講演の様子、右は紫外線をあてると浮き上がるイラストを示される本間教授です。



●シリーズ 兵庫教育大学教職大学院の授業 ⑨

～教職員の職能開発と研修プログラムの開発A～(必修専門科目)

今回の授業紹介は、1年前期に開講されている「教職員の職能開発と研修プログラムの開発A」です。

この科目では、人材育成の基礎理論(例えば、今はやりのドラッカーの目標管理)、各自の教員としての成長の振り返りとそれを互いに検証、各教育委員会の教員評価制度の事例、各教育委員会や企業の人材育成事例、様々な研修技法の理論や活用方法等々を、時に講義形式で、時にグループディスカッションなどの演習形式で、学び考えていきます。余談ですが、ドラッカーの「目標管理」は原文では「Management by Objectives and Self-control」であり、正確に訳すと「目標と自己統制による管理」だそうです。「目標管理」では誤解が生じやすいので、県によっては教員評価制度において「自己管理制度」等とセルフコントロール部分を意識的に訳しているところがあるそうです。このような興味深い話も交えながら、90分の1回の授業があつという間に過ぎ去っていききました。

右表、右図はある院生の講義ノートから抜粋したものです。この科目で扱った内容のごく一部を抜粋したものです。

研修技法いろいろ

技法	技法
導入技法	教育ゲーム
講義法	ビジネスゲーム (business game)
討議法	プログラム学習 (programmed learning)
ロールプレイング (role playing)	フィッシュボール (fish bowl)
CCテスト法 (concept clarification test)	フィードバック技法
ケーススタディ (case study)	セブクロス法 (7×7技法)
ケースメソッド (case method)	パネルディスカッション
インシデント・プロセス (incident process)	シンポジウム
イン・バスケット (in basket)	フォーラム
ブレインストーミング (brainstorming)	インタビュー (研究討議法としての)

